

迎春



「繁栄に導く」

稲美町長 古谷 博

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族おそろいで健やかに令和4年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期が幾度も繰り返される中、稲美町においては、新型コロナワクチン接種事業、1人あたり5,000円の第二期稲美町地域振興商品券の交付などに取り組んでまいりました。町としまして、今後も皆様の大切なのちと健康を守るために、国・県とも連携しながら継続的な支援に全力で取り組んでまいります。皆様におかれましては、引き続き感染症拡大防止対策にご協力いただきますようお願い申し上げます。一方、コロナ禍で1年延期のうえ開催された東京2020オリンピック・パラリンピックでは、日本選手団が史上最多のメダルを獲得しました。何かと暗くなりがちな世相の中、多くの若者が栄光をつかむ姿はまばゆいばかりで、我々に光明を見出させてくれました。

稲美町におきましては、子育て支援及び多世代交流の拠点として稲美町立子育て交流施設「いなみっこ広場」が5月にオープンしました。また、稲美中央公園の遊具更新工事や3歳児教育の受け入れ拡充のために天満幼稚園の園舎増築工事に取り組んでまいりました。いずれの施設も今年4月からご利用いただける予定でございます。

そして今年は、新たな公共交通として社会実験運行を続けてまいりました稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」を本格運行へとつなげるとともに、高齢者の補聴器購入費助成制度の導入など、住民の皆様の社会参加を促し、誰もがいつまでもいきいきと暮らせるまちづくりを進めてまいります。さらに、マイナンバーカードの普及に伴い、住民票などの証明書コンビニ交付サービスの導入やこども医療費無料化の18歳までへの拡充についても取り組みを進めてまいります。

今後も、人が栄え、商いが栄え、まちが栄える好循環を創出し、コロナ後の稲美町の繁栄が確かなものになるよう、しっかりとその道筋をつけるべく、粉骨砕身、取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくようお願い申し上げます。

最後になりましたが、住民の皆様にとりまして、健康で明るく幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



「お楽しみが、いっぱい」

稲美町議会議員 池田いづ子

明けましておめでとうございます。

議会運営につきましては、常日頃からご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年の楽しみは約30年ぶりの稲美中央公園の大改修です。

保護者の皆様の貴重なご意見をもとに、担当者とは度々練り上げ、障がいがあっても、なくても共に遊べる「インクルーシブデザイン遊具を取り入れた公園」が3月に完成する予定です。車いす利用の子ども達も共に遊べる公園へと生まれ変わります。東京方面でも最近になってやっと造られ始めたところであり、住民の皆様の声から生まれたまさに「みんなの公園」を誇りに思います。

また、昨年5月にオープンした子育て支援機能と福社会館機能を備えた「いなみっこ広場」は、夏涼しく、冬温かい建物に設計され、町内で最も環境に優しい施設になりました。今季、初めての冬を迎えますが、高断熱・高气密・日射コントロール・窓のサッシ・屋根面の太陽光パネルが威力を発揮することを期待します。

子ども達の健康に関わるトイレは、「学校のトイレはイヤ」という声がなくなるように、小中学校で洋式化され、手洗器も自動化されています。そして、母里小学校と天満東小学校のエレベーター設置の実施設計が終わり、新年度には工事が始まるでしょう。

このように数々の教育環境が整い、稲美町の姿勢を示せることは大きな喜びです。

稲美町では、小中学生に一人一台のタブレット端末の整備を進め、有効的にICT機器を活用する機会を設けています。今後はいかに学習意欲を高めることができるか、教育方法の習得の必要があり、研修を続けていかななくてはなりません。稲美町議会では、GIGAスクール構想への必要な人的・財政的措置への継続的支援を国・県へ要望しています。

皆様に幸せの花、笑顔の花がいっぱい咲く年になりますように。

